

生野駅交通センターが完成

市がJR播但線・生野駅西側に整備を進めていた新しい駅舎が完成し、4月1日から名称を「生野駅交通センター」として利用が開始されています。

この新しい駅舎は木造平家建てで、広さは約百50平方メートル。和風建築のなかに「銀山まち生野」を印象づけるデザインが随所に施されたモダンな外観となっています。また、市は生野駅西口駐車場・芝生広場の整備を進めています。これは、現在県が行っている国道312号の歩道新設・改良工事に合わせて行っ

ているもので、今年度中の完成を予定しています。

なお、同駅東側の乗降口は、今までどおり利用することができます。



4月1日に生野駅西口に完成した「生野駅交通センター」。駅舎内には、切符売場や待合室があります。今後は情報センターを設置する予定です。

神子畑地域で携帯電話サービスが利用可能に

携帯電話の基地局が神子畑区内に完成し、4月28日から同地域でNTTドコモの携帯電話サービスが利用可能になりました。

市では、携帯電話事業者に基地局の自主整備を促していますが、採算面から自主整備が不可能な地域には、事業者の参入意思が示された場合に限り、市が基地局を整備し貸与することで携帯電話不通話の解消を図っています。

今回は、NTTドコモから事業参入の承諾があったことから、



神子畑区内に整備された携帯電話の基地局

市が基地局を整備。同地域での携帯電話不通話が解消されました。



平成18年度～20年度の発掘調査により見つけた山麓部の虎口石垣

石垣の構造とともに、赤松広秀が居住する居館施設の一部を明らかにすることができました。石垣の調査からは、平坦部上がるための虎口(出入り口)構造が明らかになったことから、山麓に大きな「門」が存在していたことが判明。姫路城であれば、まさに大手門に当たる部分。この「門」から内側が、いわゆる「城内」としての位置付けが可能です。山頂部の石垣城郭を含む「古城山」全体が要塞であることが裏付けられたのです。

市教育委員会は、山頂部の

石垣部分だけでなく、堅堀・井戸曲輪などの竹田城跡関連施設と山麓部の居館も含め、今

後一体的に保存活用を図れるように国に対して史跡の追加指定をお願いしていましたが、このほど、5月15日に開催された文化審議会で追加指定の答申がありました。今回、追加指定を受けたことで、その面積は約14万4千平方メートルになりました。古城山全体からすればほんの一部ではありますが、将来的には古城山全体の史跡指定を目標としています。また、今後の保存整備や活用については、地元竹田地区や市民の皆さんと共に考え、進めて行くこととしています。

(市教育委員会社会教育課)

- ※1 南米・ペルー南部の標高約2千4百メートルの高所にあるインカ帝国の都市遺跡。世界遺産。
- ※2 山城で、敵が移動するのを防ぐために山の斜面に上下方向に設けた堀。
- ※3 城やとりでの周囲を土や石などで築き巡らしてある囲い。また、その内側の地域。
- ※4 山腹から侵入しようとする敵を阻止するため、山の尾根伝いに築かれた石垣。尾根上を登るように見えることから「登り石垣」と呼ばれています。